

詩篇 112 公同礼拝には献金も含まれる

皆さんに質問です。何かをするのが本当に大好きだとして、そのためにいくらまでなら使っても良いと思いますか。私個人は、たくさんの方が無駄使いだと思えるような素晴らしいレストランでバスと食事をするため、大金を費やしたことが何度かあります。知り合いの中には、ディズニーワールドに行くために一年間お金を貯めるといふ人もいます。娯楽だけではありません。アイビーリーグの大学からの学位を取ることに価値を見いだす人たちは、そうした学校に行くためにいくらでもお金を使います。私たちは価値を認めているものにお金を使うのです。先週、聖書の中で礼拝と献金がたびたび関連付けられていると申しました。今日は別の詩篇から、喜んで捧げることと神を礼拝することのつながりについて更にお話ししたいと思います。詩篇 112 編では、真に神を礼拝することには、神へ捧げることにも含まれることを示しています。まずは詩篇を読みましょう。「ハレルヤ。幸いなことよ 主を恐れ その仰せを大いに喜ぶ人は。 2 その子孫は地の上で勇士となり 直ぐな人たちの世代は祝福される。 3 繁栄と富はその家にあり 彼の義は永遠に堅く立つ。 4 直ぐな人たちのために 光は闇の中に輝き昇る。主は情け深く あわれみ深く 正しくあられる。 5 幸せなことよ。情け深く 人に貸し 自分に関わることを公正に扱う人は。 6 その人はとこしえまでも揺るがされない。正しい人はとこしえに覚えられる。 7 その人は悪い知らせを恐れず 主に信頼して 心は揺るがない。 8 その心は堅固で 恐れることなく 自分の敵を平然と見るまでになる。 9 彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立ち 彼の角は栄光のうちに高く上げられる。 10 悪しき者はそれを見て苛立ち 歯ぎしりして消え去る。悪しき者の願いは滅び失せる。」

まず最初にこの詩篇で描かれている人物像が説明されています。また、その人物について私たちが目にするものが何であれ、神を賛美するものであることが述べられています。ですからこの詩篇は「ハレルヤ。幸いなことよ 主を恐れ その仰せを大いに喜ぶ人は。」と始まっているのです。この人物、もちろんこの人物は男性でも女性でもありうるわけですが一この人について二つのことが述べられていてそのどちらも重要です。最初に、この人は主を恐れると言われています。普通に考えると、御子イエス・キリストを通して与えられる神の救いを受け入れていない人は、神の裁きの下にあるわけですから、純粋に恐れを感じるはずですが、それはクリスチャンの抱く恐れではありません。クリスチャンが抱く恐れとは、神への畏敬の念です。それは神と神に関するすべてのことを真剣にとらえることです。また十戒の最初の3つの戒め「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない…あなたは、自分のために、偶像を作ってはならない…あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない」について、それが神について何を語っているのかを注意深く考えることです。それらは、私たちの人生において、神に帰されるべき高い名誉と神が畏れを持って仕える存在であるべきことを語っています。神から与えられることを当然のこととしたり、神を私たちのレベルに引き下げるべきではありません。私たちは主を畏れるべきです。ですが、この人物について二つ目のことが書かれています。この人は「その仰せを大いに喜ぶ」とあります。神を畏れ敬うことの一つの側面は、神に従うことです。ですが、義務感や怖さゆえに従い、自分がしていることに何も喜びを見いだすことができないこともあり得ます。神が好意を示す者、真に祝福された人であるためには、義務として従う以上に、何かをやることを喜ぶ態度が必要となります。つまり「あれをしなければならない」という態度ではなく、「あれをすることができる」という態度であるべきです。私は神に仕え、神に従うという特権を与えていただいたのだという態度です。ヨハネの福音書 14:21 で、イエスは喜んで従うことと神の祝福との関係を示してくださっています。イエスは「21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します。」と言っています。イエスはご自分に従う者たちと共にあること、あるいはご自身をその者たちに現すことを約束されます。そして、詩篇 16:11 には「満ち足りた喜びが あなたの御前にあり」とあります。つまり、私たちは従順であることを喜び、楽しむようにと言われています。それがどのように起こるかといえば、私たちが従順であるとき、私たちの人生に完全であふれんばかりの喜びをもたらしてくださる神の臨在が約束されているのです。この詩篇の他のすべての部分は、神の仰せを喜ぶという考えからくるものです。

2節を見て下さい。「2 その子孫は地の上で勇士となり 直ぐな人たちの世代は祝福される。」もし神の民であるクリスチャンが、神の命令に従うというただ一つのことを行うなら、私たちが関わる命のあらゆる領域において違いをもたらすことでしょうか。つまり、私たちの境界だけでなく、家庭や町、国家にまで変化をもたらすということです。それが、この詩篇の続きを読み進めると見えてくることです。神の命令に従うことを喜びとして神を敬う祝福されたものは、周囲に影響を与えます。その者は「勇士となり」ます。そして、その祝福がその人の周りから国や、町、家庭へと広がるのを見ます。両親の従順によって未来の子どもたちは祝福されます。私たちは、神のために変化を起こし、神の栄光が日本を通して広まるのを見ることを本当に望んでいるでしょうか。もしそうであれば、イエス・キリストを知る私たち皆が一つのことをするべきです。それは、神の命令を楽しみ、創造主に従うことに喜びを見だし、私たちの罪のために十字架で死んでくださった方のために生きることです。私たちの従順な生活を通して神の栄光が示されることによって、従順な生き方は周囲の人たちを祝福します。ですが、この祝福された者が味わう、もっと個人的な別の祝福があります。3節には「3 繁栄と富はその家にあり 彼の義は永遠に堅く立つ。」とあります。これは従順が経済的な富をもたらすことを意味するのでしょうか。多くの繁栄の福音を語る説教者たちは、そう信じさせようとします。ですが、これは従順で神の祝福を得るという、ある種ビジネス的取引のような意味で、従順であれば自動的に富を得られると教えているのではありません。それよりも、神はご自分に従順な者を祝福されるけれど、その祝福の一部は物質的なものであるという真理を指し示しています。ですが、物質的な富と祝福が、義という霊的祝福と対になって述べられているということが非常に重要です。これらが対になっていることの重要性は、その違いを見ることです。富は永遠ではありませんが、義は永遠に続きます。それが富や物質的な豊かさとは異なる点です。主に在って喜ぶ人とは、そのような富にしがみつくことでもたらされる一時的な利益よりも、神に従うことによってもたらされる義という永遠の祝福を求める人です。この個所の終わり4節では、この祝福が神からの賜物であることを示すことによって詩篇の最初の部分を締めくくっています。つまり、最後の節は、神に従順な人々に対する神の寛大さを示しています。4節は「4 直ぐな人たちのために 光は闇の中に輝き昇る。主は情け深く あわれみ深く 正しくあられる。」と言っています。幸いな人の人生に祝福をもたらしたのは、神の寛大さであり、神の恵みです。まるで自分の努力で手に入れたかのように富にしがみつくことはできませんし、義も私たちのものではありません。富は神のものです。詩篇 50:10は「森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。」と言っています。使徒パウロは、この地上で得たものに対してピリピ 3:8-9 で信じられないような応答をしています。「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。」パウロにとって富や財産はどうでもよいことでした。それは、与えられた義の賜物の方がはるかに素晴らしい賜物だったからです。神はイエス・キリストに信頼する私たちに、その義を与えてくださいます。イエスが十字架で私たちの罪を引き受けてくださった代わりに、私たちがイエスを主であり救い主として受け入れるとき、主の義を与えられます。私たちの内に与えられるのです。

このことは5節に反映されていますが、私たちに對する神の寛容さに応答して、人々が寛大に捧げるのを見ます。5節には「5 幸せなことよ。情け深く 人に貸し 自分に関わることを公正に扱う人は。」とあります。神から祝福されている人は、その祝福を認め、惜しみなく捧げ、貸し与えることで進んで他を助け、他の人と誠実に接することで、主に在って神のおきてを喜びます。礼拝には惜しみない捧げものが含まれるという考え方はここから始まっています。私たちの人生は、与えられたキリストの義によって変えられました。そしてそれは、私たちがこの世のものに固執せず、そのことを惜しみなく捧げることで示すことを意味します。多くの場合、私たちの気前の無さ、捧げることを拒む心は、神への信頼の欠如によるものです。ですが、惜しみなく与え祝福

される人は、神への信仰ゆえに、多くの人には説明のできない平安と希望を自分の人生に抱いているからこそ、そのようにできるのです。これを6-7節では次のように説明しています。「6 その人はとこしえまでも揺るがされない。正しい人はとこしえに覚えられる。7 その人は悪い知らせを恐れず主に信頼して心は揺るがない。」惜しみなく与えることによって示される献身と、信仰に裏付けられた生き方が、私たちが悪い物事から守ってくれるわけではありません。ですが、悪いことが起こった時、私たちには詩篇18:2によれば、よりどころとなる堅固な岩があります。「主はわが巖 わが砦 わが救い主 身を避けるわが岩 わが神。わが盾 わが救いの角 わがやぐら」神のおきてを喜ぶ者を揺さぶることができるものではありません。なぜなら、神を知り、神に従うほどに、私たちの神への信頼は強くなるからです。私たちが信頼するのはお金ではなく、そもそもすべてを与えてくださるお方なのですから、気前よく捧げることは当然のことです。私たちは8節に記されているような確信があります。「8 その心は堅固で恐れることなく自分の敵を平然と見るまでになる。」主に信頼し、イエス・キリストに信仰を置くことで、私たちにとって最大の問題である罪は既に解決しています。イエスゆえ、私たちは義なる者の一人に数えられ、救われていることを知ることで安心することができます。最後には、この世でイエスを拒絶する人も含めて、全ての人イエスを主と認めるようになります。ピリピの手紙2:10-11には「それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」とあります。最後には、神のおきてを喜ぶ祝福された人は、この地上で神に従った結果生じた敵が、自分の努力ではなく、神の働きを通して打ち負かされるのを見ることとなります。

繰り返しになりますが、義なる祝福された者たちに与えられる神への信頼は、9節にあるように捧げることに繋がります。「9 彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立ち彼の角は栄光のうちに高く上げられる。」クリスチャンの捧げものとは、私たちがキリストに在って与えられているすべてに基づく捧げものです。ですから、私たちは自分たちの中で最も乏しい人に、自由に惜しみなく与えるのです。新約の時代では、捧げものを集めることは教会を通して行われました。また、新約聖書のヤコブの手紙では、最も助けを必要としている人々を助けるよう勧めています。ヤコブの手紙1:27「27 父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。」同じように、私たちが教会に捧げることで、孤児や未亡人、貧しい人々を助けることができます。私たちは教会のイベントを通して愛児園などの子どもたちを支援しています。支援のための献金を捧げることもそうです。皆さんの教会への献金から、南部バプテスト連盟の共同プログラムや、センド・リリーフのような世界的な救済活動を支えています。結局のところ、貧富の差に関係なく、すべての人が持っている最大の必要は、罪が赦されることです。教会を通して皆さんが捧げてくださる捧げものが、イエス・キリストの福音を人々に伝える働きを可能にしているのです。この詩篇の終わりに、捧げることの最後の理由を見ることができます。それはとても大きなものです。この世はいつか終わりを迎え、私たちが最も喜びを感じ、しがみつこうと思うものはすべてなくなってしまいます。10節には「10 悪しき者はそれを見て苛立ち 歯ぎしりして消え去る。悪しき者の願いは滅び失せる。」とあります。悪しき者、正しくない者たちが手にする性向は長くは続きません。それらは「消え去り」ます。最後の裁きが来るとき、問われるのは、あなたが義なる者たちの中にあるかです。あなたが義と認められる唯一の方法は、イエス・キリストを通してのみです。あなたがイエスゆえに義と認められた存在なのであれば、神のおきてと神があなたにしてくださったことのすべてを喜ぶべきです。そしてその喜びは捧げることに繋がるはずですが、この説教は什分の一を捧げなさいとか、特定の金額を捧げなさいといったものではありません。ですが、イエス・キリストを通して私たちが救ってくださる神は、神が私たちに与えてくださるすべての物質的な富よりも価値があるということを示すものです。そのことが、教会を通して、この世での神の働きを支えるために、惜しみなく捧げることに繋がるはずですが、すべての喜びと楽しみの源である神に栄光を帰すため、私たちのすべてを捧げることにより、私たちの人生は変えられるはずですが、銀行の残高や自分の能力、学歴、その他私たちがキリストより

も求め喜ぶ物にではなく、イエスに目を向け、人生のあらゆる面でイエスに信頼すればするほど、私たちのイエスに在る喜びは増し、それゆえに私たちの捧げものも増えるのです。

19世紀末のロンドンに、リリアス・トロッターという若い女性がいました。彼女は画家になることを望んでいて、実際、その情熱のために人生のすべてを注いでいけば、かなり有名になれる人でした。イギリスの作家であり美術史家でもあったジョン・ラスキンは、リリアスがそれまで出会った中でも最高の画家であると確信し、もしリリアスが許すなら、彼女が美術界で成功できるよう導き、美術に専念させてやると申し出ました。ですがリリアスはイエスも愛していて、ロンドンの娼婦や社会のはみ出し者へのミニストリーに多くの時間を費やしました。そのミニストリーを諦め、田舎に移り住んで芸術に専念するよう求められたとき、彼女は、自分の人生においてイエスに仕えること以上に価値のあるものはないという難しい決断をしました。彼女はラスキンの申し出を断り、その後1889年に北アフリカに移住し、その後の40年間、アルジェとその周辺地域のアラブ人女性たちにイエスのことを伝えましたが、世界のほとんどの人に知られることなく生涯を終えました。1922年にヘレン・レンメルという女性がトロッターの書いた「Focussed」という詩を読み、彼女が全てを犠牲にしてイエスに従い、世界で最も福音が伝えられていない地域の一つに行ったという話を聞きました。ヘレン・レンメルは、その話を聞き、その詩をもとに、この美しい讚美歌の歌詞を記しました。「目を上げて主の御顔を見るとき、この世のものは薄れ、主の栄光輝く。」あなたも目を上げて主の御顔を見てください。そして献金だけではなく、人生のすべてをイエスに委ねませんか。祈りましょう。

Psalm 112 Corporate Worship includes Giving to God

Let me ask you a question. If you really enjoy doing something, how much are you willing to spend to do that? I have personally a few times spent large amounts of money for Beth and I to eat at incredible restaurants which many people would consider a waste of our money. I know people who save up for a year so they can go to Disney World. But its not just entertainment, for those who value a degree from an ivy league college, they will spend whatever money it costs to go to that type of school. We give to what we value. Last week, I mentioned that giving was many times connected to worship in the Bible. And I want to connect those dots even more with another Psalm that connects generosity in giving with worship of God. Psalm 112 shows us that to **really worship will include giving to God**. Let's begin by just reading the psalm. **Praise the Lord! Blessed is the man who fears the Lord, who greatly delights in his commandments! 2 His offspring will be mighty in the land; the generation of the upright will be blessed. 3 Wealth and riches are in his house, and his righteousness endures forever. 4 Light dawns in the darkness for the upright; he is gracious, merciful, and righteous. 5 It is well with the man who deals generously and lends; who conducts his affairs with justice. 6 For the righteous will never be moved; he will be remembered forever. 7 He is not afraid of bad news; his heart is firm, trusting in the Lord. 8 His heart is steady; he will not be afraid, until he looks in triumph on his adversaries. 9 He has distributed freely; he has given to the poor; his righteousness endures forever; his horn is exalted in honor. 10 The wicked man sees it and is angry; he gnashes his teeth and melts away; the desire of the wicked will perish!**

The first verse sets the stage of who is being described in this Psalm. It also sets the stage by showing us that whatever we see about this person, it glorified God. So this Psalm begins, **Praise the Lord! Blessed is the man who fears the Lord, who greatly delights in his commandments!** There are two statements made about this man, and of course, this could be taken as person, man or woman – and both of these statements are important. The first statement says this person **fears the Lord**. Now there should be a response of genuine fear in the way we normally think of it by those who have not accepted God's salvation offered through God the Son, Jesus Christ, because they remain under God's judgement. But this is not the fear of a Christian. The fear of a Christian is a reverence and honor that we give to God. It is taking him and everything about him seriously. It is looking at the first 3 of the 10 commandments and carefully considering what they tell us about God "You shall have no other gods before me...You shall not make for yourself a carved image or any other likeness of a god...and you shall not take the name of the Lord your God in vain." These speak to the high honor and place of reverent devotion that God should have in our lives. God is not someone to be taken for granted or brought down to our level. We are to fear the Lord! But then there is a second statement made about this person. He or she **greatly delights in His [God's] commandments**. One aspect of fearing and honoring God is to obey him. But you can obey and do it out of a sense of duty or even emotional fear, and not find joy in what you are doing. But to be a truly blessed person, one who God pours out his favor on requires more than dutiful obedience, it requires an attitude of delight in doing those things. So rather than an attitude of "I have to do that," our attitude becomes "I get to do that." I get the privilege of serving God and obeying him. In [John 14:21](#), Jesus shows us this connection between joyful obedience and God's blessing. He says, [21Whoever has my commandments and keeps them, he it is who loves me. And he who loves me will be loved by my Father, and I will love him and manifest myself to him.](#) So, Jesus

promises to be present with or to manifest himself to those who obey him. And when we look [Psalm 16:11](#), it tells us in part that, [in your presence there is fullness of joy](#). So, we are told that we should delight, and take joy in obedience. And the way that happens is that as we are obedient, we are promised God's presence, which bring complete and full joy to our lives. Everything else in this Psalm comes from this idea of delighting in God's commands.

Look at verse 2. **2 His offspring will be mighty in the land; the generation of the upright will be blessed.** If the people of God, Christians, would do just one thing, delight in obeying God's commands, it would make a difference in every area of life that we connect with. This means that it would make a difference in our church, but also in our homes and in our cities and even in our nation. That is what we see as these verses continue. The Blessed person who honors God by delighting in obeying his commands, will make an impact on the area around him. He will be **"mighty in the land."** And we see the blessing here go from the area around him such as nation and city to home. Future generations of his children will be blessed through their parents obedience. Do we really want to make a difference for God and see his glory spread through Japan? Then all of us who know Jesus Christ need to do one thing – delight in God's commands...find our joy in obeying our Creator and living for the one who died on the cross to pay the penalty for our sins. Our obedient life blesses those around us as the glory of God is displayed through our obedient life. But then we see another blessing to this blessed person that is more personal to himself. Verse 3 says, **3 Wealth and riches are in his house, and his righteousness endures forever.** Does this mean obedience brings financial wealth? That is what many prosperity gospel preachers would have you believe. But this is not teaching automatic wealth for obedience in some sort of transactional business sense that you are purchasing God's blessing by obedience. Instead it is pointing to the truth that God will bless those who are obedient to him and part of that blessing is materially. The fact that the material wealth and blessing is paired with the spiritual blessing of righteousness is very important, though. The importance of the pairing of them is to see the difference. The wealth and riches are not eternal or permanent, but it is righteousness that endures forever. That puts a different focus on riches and material wealth. The one who delights in the Lord is seeking the eternal blessing of righteousness that comes through obedience to God rather than the temporary benefit that may come in seeking to hold on to these riches. As verse 4 ends this section, it wraps up the first part of this Psalm by showing us that this blessing has been a gift from God. In other words, this final verse shows that these verses are describing **God's generosity towards those who are obedient to him.** Verse 4 says, **Light dawns in the darkness for the upright; he is gracious, merciful, and righteous.** It is God's generosity, it is his grace, that has brought those blessings into the life of the one who is blessed. The wealth is not ours to hold onto as if it is from our own effort and the righteousness is not ours either. The wealth is God's. [Psalm 50:10 says, For every beast of the forest is mine, the cattle on a thousand hills.](#) And in response to what he had on this earth, the apostle Paul responded with the incredible words of [Philippians 3:8-9. 8 Indeed, I count everything as loss because of the surpassing worth of knowing Christ Jesus my Lord. For his sake I have suffered the loss of all things and count them as rubbish, in order that I may gain Christ 9 and be found in him, not having a righteousness of my own that comes from the law, but that which comes through faith in Christ, the righteousness from God that depends on faith](#)— Paul didn't care about wealth or possessions because the far greater gift was the gift of imputed righteousness. God puts within those of us who put our faith

in Jesus Christ, his righteousness. In exchange for Jesus taking our sins on the cross, when we accept him as our Lord and Savior, we are given his righteousness. It is imputed or put within us.

So it is neither our wealth or our righteousness, and this is reflected in verse 5, where we see **human generosity in giving in response to God's generosity toward us**. Verse 5 says, **5 It is well with the man who deals generously and lends; who conducts his affairs with justice**. The man or woman who is blessed by God recognizes that blessing and delights in the Lord and God's commands by giving generously and willingly helping others through making loans, and dealing honestly with others. This is where we begin to see the idea that worship of God will include generous giving. Our lives have been changed by the righteousness of Christ that we have been given. And that means that we hold the things of this world loosely and express that loose hold in generous giving. Too many times, our lack of generosity, our lack of giving is really driven by a lack of trust in God. But the blessed person who gives generously can do this because their faith in God creates a security and a hope in their life that is unexplainable to most people. Verses 6-7 explain this. **6 For the righteous will never be moved; he will be remembered forever. 7 He is not afraid of bad news; his heart is firm, trusting in the Lord**. Godliness and even godly living as shown by generous giving does not insulate us from bad news and bad things. But when those things come, we have a solid rock to hold onto according to **Psalm 18:2. The Lord is my rock and my fortress and my deliverer, my God, my rock, in whom I take refuge, my shield, and the horn of my salvation, my stronghold**. Nothing can shake the one who delights in God's commands, because the more we know God and obey God, the stronger our trust in him becomes. Generous giving is natural, because our trust is not in money, its in the One who gives us the resources in the first place. We have a confidence described in verse 8. **8 His heart is steady; he will not be afraid, until he looks in triumph on his adversaries**. By trusting in the Lord, by putting our faith in Jesus Christ, our greatest problem of sin has already been solved. Through Jesus, we are counted among the righteous and can be steady and secure in the knowledge of our salvation. In the end everyone, including those who reject Jesus in this life will acknowledge Jesus as Lord. **Philippians 2:10-11** says, **10 so that at the name of Jesus every knee should bow, in heaven and on earth and under the earth, 11 and every tongue confess that Jesus Christ is Lord, to the glory of God the Father**. In the end the blessed man who delights in God's commands will see any enemies that result from obeying God here on earth overcome, through God's work, and not our own effort.

Again, this trust in God that is available to those who are righteous and blessed leads to giving in verse 9. **9 He has distributed freely; he has given to the poor; his righteousness endures forever; his horn is exalted in honor**. Christian giving is giving that is based on all that we have been given in Christ. So, we do it freely and generously, and give it to the least among us. In the New Testament, those collections of offerings are done through the church. And the book of James in the New Testament commends helping those who are most in need of help. **James 1:27 says, 27 Religion that God our Father accepts as pure and faultless is this: to look after orphans and widows in their distress and to keep oneself from being polluted by the world**. So does our giving to the church help us look after orphans widows and poor. It does, through our events we hold that support places like Aejian home for children. It does through giving to our benevolence offering. Your giving through the church toward the money we send to the Cooperative

Program of the Southern Baptist Convention supports even worldwide relief efforts like Send Relief. Ultimately, the greatest need that everyone has that affects rich and poor alike is for their sin to be forgiven. Your giving through the church makes our efforts at telling people the good news of Jesus Christ possible.

As this Psalm ends, we see one final motivation for giving, and it is the greatest one. This world is coming to an end, and all of the things that we take the most pleasure in and try to hold onto the hardest will be gone. Verse 10 says, **10 The wicked man sees it and is angry; he gnashes his teeth and melts away; the desire of the wicked will perish!** Any successes the wicked, those who are not righteous, have are only short lived. They will **“melt away.”** There is a coming final judgement, and the question will be at that time, are you among the righteous? The only way that you will be declared righteous is through Jesus Christ. If you have been declared righteous because of Jesus, then you should be delighting in God’s commands and in God himself for all that he has done for you. This delight should lead to giving. This is not a sermon on giving a tithe of 10% or any specific amount, but it is pointing out that our God who saves us through Jesus Christ is worth more than all the material wealth he himself has given us. That should lead us to give generously to support his work in this world through his church. Our lives should be changed as we give all of ourselves to glorifying God who we take all our delight and joy in. This delight in him grows and therefore our giving grows, the more we look at Jesus and trust in him with every aspect of our lives, rather than in our bank account or our abilities or our education or anything else that we admire and delight in rather than Christ.

At the end of the 19th century in London, there was a young lady named Lilius Trotter. She was an aspiring artist, and actually was on her way to becoming quite famous had she pursued that course full time for the passion of her life. John Ruskin, the English writer and art historian believed that she was among the best he had every met and offered to guide her career into the upper levels of the art world if she let him, and devote herself fully to art. However, Lilius also loved Jesus and spent much of her time doing ministry with the prostitutes and outcasts of society in London. When asked to give up this ministry, move to the countryside and focus on art, she made the difficult decision that nothing in her life was worth more to her than serving Jesus. She rejected Ruskin’s offer and ended up moving to North Africa in 1889 and spending the next 40 years of her life in obscurity to most of the world telling Arab women in Algiers and the surrounding areas about Jesus. In 1922, a lady named Helen Lemmel read a poem Trotter had written called Focussed, and heard the story of her giving up everything to follow Jesus to one of the most unreached areas of the world. From hearing that story and based on that poem, Helen Lemmel wrote the words of this beautiful hymn. Turn your eyes upon Jesus, Look full in His wonderful face, And the things of earth will grow strangely dim, In the light of His glory and grace. Will you turn your eyes to Jesus, look to him... and trust him with not only your giving but your entire life? Let’s pray.